

# 弊社所属115系電車S25・S27編成について

—懐かしい面影を残し続けて—

新型車両SR1系（一般車）の運行開始に伴い、S25・S27の両編成は2021年3月をもって営業運転を終えることとなりました。お客さまには、長きにわたりご利用いただきましたことを心より御礼申し上げます。

先日、当該編成の引退についてお知らせいたしましたところ、全国の鉄道ファンの方々や沿線地域の皆さまから、別れを惜しむメッセージを数多く頂きました。あらためて感謝申し上げますと共に、両編成の来歴を皆さまにも振り返っていただけますと幸いです。

写真撮影：左列3点 加藤和毅 氏 ・ 右列3点 弊社地域連携室



S25編成外観（↑塗色変更前 ・ ↓弊社標準色）



S27編成 外観



初対面（S27編成と新津から到着したばかりのS103編成）



S25編成（湘南色）外観・・・S3編成併結



S27編成車内



↑ S25編成 軽井沢方 クモハ115-1075  
↓ S27編成 軽井沢方 クモハ115-1040



↑ S25編成 妙高高原方 クモハ114-1511  
↓ S27編成 妙高高原方 クモハ114-1514



## 限りなく原型を留めた内装や機器・・・国鉄時代の面影と共に

弊社所属115系電車のS25編成は当初、大糸線で運用されていた戦前形旧形電車の置き換えを目的として、1981(昭和56)年から製造し運行されたものです。115系1000番代としては後期に製造された車両で、S6編成(2020.7廃車)やS27編成等の初期に製造された編成とは違い、通風器の位置や冷房機器脇の点検用足場の大きさなども微妙に異なり、一見同じように見える車両でも様々な部分に「個性」を見つけることができます。

また、両編成における一番の特徴としては、車内の座席の色が国鉄時代の青色を保っていることや、クモハ114形に関しては、行先表示札(いわゆる“サボ”)受の枠が残されていることや冷房および照明用の電源装置が、インバータ(SIV)ではなく独特の回転音を発する、電動発電機(MG)のままであることなどが挙げられます。

このため、弊社車両の中でも特に実際に乗車されて国鉄時代の雰囲気を楽しまれたり、発電機の回転音や走行用のモーター(MT54)が発する音を楽しむファンの方々に好まれていた編成でもありました。

## S25・S27編成の所属履歴

- 1978. 5.30 日本車輛株式会社豊川製作所(愛知県豊川市)で新製。長野鉄道管理局松本運転所へ配置(S27)。
- 1981. 6.19 川崎重工業株式会社兵庫工場(兵庫県神戸市)で新製。長野鉄道管理局松本運転所北松本支所へ配置(S25)。
- 1985. 3頃 北松本支所廃止に伴い松本運転所(本所)へ異動(S25)。この頃から大糸線の増結用として運用開始(S27)。
- 1988. 1.28 モハ114-1181をクモハ114-1511に先頭車化改造し、2両編成となる(S25)。
- 1988. 3.27 モハ114-1054をクモハ114-1514に先頭車化改造し、2両編成となる(S27)。
- 2000.12. 1 松本地区車両配置変更に伴いJR東日本長野支社長野総合車両所へ転属。
- 2013. 6. 1 しなの鉄道所属となる。

本広報資料の作成に当たっては、イカロス出版株式会社「季刊J-train」編集部および同誌の執筆や撮影で著名な前納浩一氏と加藤和毅氏のご厚意とご協力を賜りました。この場を借りて御礼申し上げます。